

日本創生委員会 <第1回 会議骨子>①

< 議事次第 >

●2009年2月12日(火)11:30~13:30

経団連会館12F ダイヤモンドルーム ※出席者については別途委員名簿参照

- ・主催者会長挨拶
- ・進め方要領について
- ・寺島委員長挨拶、
基調レポート「2008年への視座～世界潮流と日本の進路を考える～」
- ・各委員自己紹介

< 決定事項 >

- ・委員会名称は「日本創生委員会」とする。
- ・当該委員会の委員長は寺島実郎氏、座長は宮本盛規氏とする。
- ・作成する議事録については固有名詞は入れない。
- ・本委員会は、議論の出口を予め決めることはせず、結論をどうするかは(委員合意で)走りながら考える。
- ・毎回(3つ程)テーマを設定、委員等によるプレゼンを踏まえ、議論する形式を採る。

【次回会議】 4月4日(金)11:30~13:30 東京會館11F シルバールーム

日本創生委員会 <第1回 会議骨子>②

< 三村会長挨拶 >

- ・昨今、株価等経済の低迷や政治の混迷を見ていると、このまま日本はどうかという不安がある。これにいかに対応するかが求められる。成長より分配議論に軸足がおかれている所も気になる。
- ・世界で何が起きているか、(日本は)次に何を為すべきかについて、考え、議論し、問題点をクリアにしなければ、と思っている。
- ・JAPICは一昨年、定款改正し、「国家的諸課題の解決に寄与」とした。本委員会はそれを具現化する取組みである。

< 寺島委員長挨拶 >

- ・当委員会は、経済人・産業人として(これからの日本について)どういう視点で、どう向き合うべきか、を考え、かつ整理しなければならない重要な会議である。
- ※進めるにあたり、以下の3つの視点が大切であると考えます。
- ・思想的な緊張(实体经济とマネー経済、産業の金融化等、グローバル化の潮流の中での認識と覚悟)。
 - ・日本の立ち位置(東アジアとの連携とその必要性、アメリカとの同盟関係等)と厳しい現実。
 - ・(ビジョン計画ではなく)実行計画、やれることを行動計画として示す。

< 委員自己紹介 >

※主要意見 要約

- ・世界動向の急速な変化を認識し、国際社会のなかで、日本が何を為すべきかがまさに問われる時代である。日本創生委員会を立上げての取組みは、大変タイムリーかつ、意義深いことである。
- ・国際競争力を考えるなかで、实体经济とマネー経済、あるいは都市と地方の格差の問題等、多様な議論がなされることは大変楽しみである。
- ・ものづくりや金融、地域の経済団体等、それぞれの専門的立場からご協力させて頂ければと思う。
- ・これだけの(専門性の高い)メンバーが集まり、日本のあり方について議論することに大きな期待を感じている。

日本創生委員会 <第1回 会議骨子>③

< 基調講演 >

「2008年への視座～世界潮流と日本の進路を考える～」

※レジュメにおいて、日本はどういうところに立っているか、ファクトファインディングしている

- ・21世紀に入って7年間の世界潮流として、実体経済の成長率は3.5%、物流経済は7%、金融経済は14%と倍々ゲームになっており、金融化が我々の周りを取り囲んでいる。
- ・貿易構造のアジアシフト化、アジアとの貿易で日本は飯を食っているという認識が必要である。貿易総額に占める比重が07年、対米貿易が16.1%に対し、対中貿易(中国単体)が17.7%とこれを上回っている。グレートチャイナの相関が深まり、より大きく見える。
- ・日本における企業物価指数において、素材原料217.6に対し、最終財91.0と川上インフレ、川下デフレの極端な2極化のなかで(政策として)どちらに目線をおくのか考えなくてはならない。
- ・エネルギー価格高騰の構造において、価格は需給バランスで決まっておらず、マネーゲームが株価だけでなく、エネルギー高騰の要因にもなっている。しかし、為替を円高に持ってくることによって石油の高騰を吸収し、パニックになっていない。
- ・訪日中国人の急増やオーストラリアからニセコにリゾートに殺到する状況。日本に来てもモノが安いという印象を持っている。これらは為替の問題(魔術)によるところが大きい。
- ・日本の超低金利政策と「円キャリー」資金の問題。個人金融資産1500兆円が日本の産業を支えずに、投資ファンドを通じて外に出て行き、(還流して)海外資金が日本を支えているのが現状である。
- ・世界動向の把握が必要である。例えば、イギリスは金融・不動産だけが伸びて、製造業はマイナス成長。これらは日本にとっても示唆深い。